

最近の症例から (23) 両側性に下顎第2・第3大臼歯が水平埋伏していた1例

大多和秀幸, 古澤 清文

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者: 18歳, 男性
初診: 1988年6月14日
主訴: 7|7の萌出遅延
既往歴, 家族歴: 特記事項なし
現病歴: 7|7の萌出遅延を主訴に, 1988年6月14日に本学矯正科を受診し, パントモグラフィーにて87|78の水平埋伏(写真1)を認めたため, 治療方針のconsultationを目的として当科を対診した.

現症
全身所見: 体格は中等度, 栄養状態良好であった.

局所所見: 顔貌は左右対称性で, 両側顎下リンパ節に腫脹, 圧痛等は認めなかった. 口腔内所見

として, 8|の歯冠は一部萌出しているものの, 7|78は未萌出であった. また, 8|歯冠周囲および7|78相当部歯肉に炎症所見は認めなかった.

X線所見: 7|7は8|8に対して低位に位置し, 4歯ともほぼ水平に埋伏していた(写真2).

臨床診断: 水平埋伏歯(87|78).

処置: 当初, 8|8を抜歯し, 7|7を牽引・直立する治療方針を企てたが, 7|7の牽引期間が長期におよび, なおかつ良好な咬合関係が獲得できる可能性が低いという矯正学的判断のもと, 7|7抜歯窩への8|8移植術を施行した. 全身麻酔下に, 愛護的に8|8を抜歯し, 生理食塩水中に保存した後, 7|7の分割抜去を行い, その抜歯窩に8|8を移植・固定した(写真3).

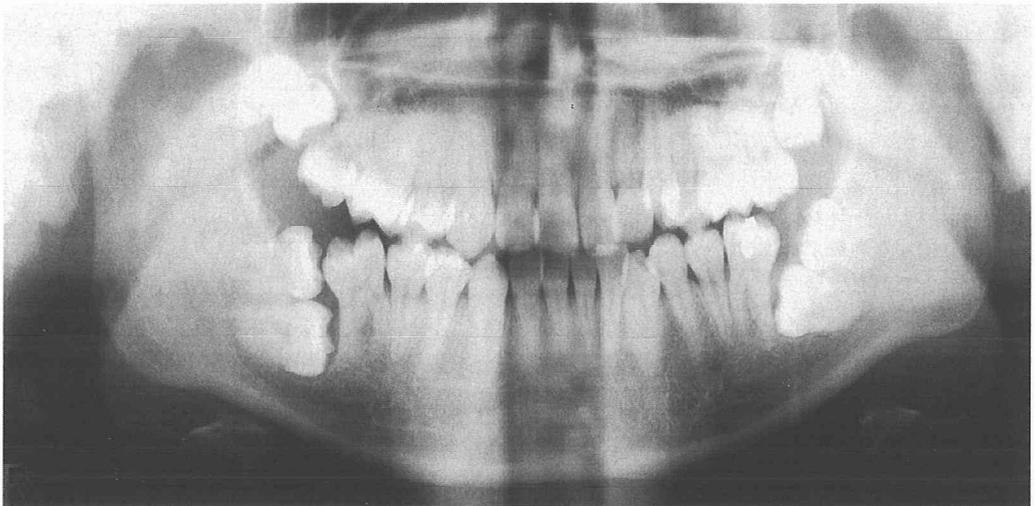


写真1: 初診時パントモグラフィー.
両側性に水平埋伏する87|78を認める.

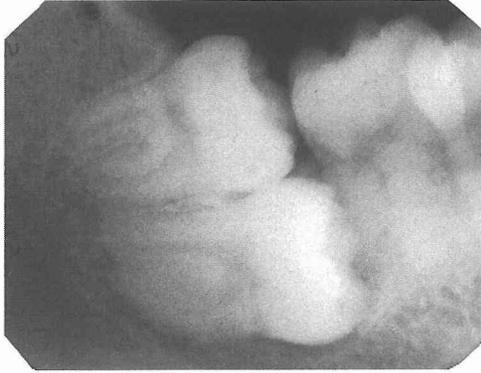


写真2：デンタルX線写真。

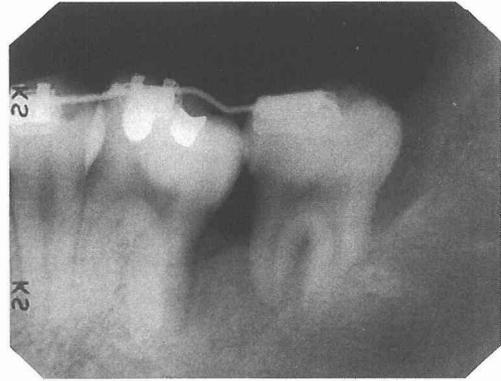
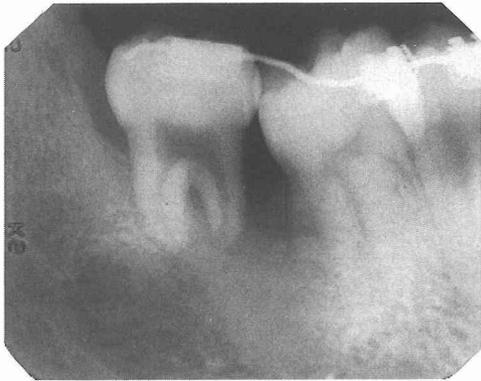


写真3：移植・固定後のデンタルX線写真。

7|7抜歯窩に8|8を移植し、矯正用ブラケットおよびワイヤーを用いて固定を行った。

多数歯埋伏の原因となる全身疾患としては、クレチン病、鎖骨頭蓋異形成症、クル病、内分泌障害などが挙げられる。自験例では、これらの全身疾患を認めず、第2大臼歯が智歯に比べて低位に位置することから、両側性に埋伏した原因については不明であるものの、7|7歯胚の位置異常や萌出力不足^{1,2)}のほか7|7の歯胚形成時期に対する8|8の歯胚形成時期の相対的な早さなどの局所的

因子が関与している可能性が考えられた。

文 献

- 1) 美濃部浩久, 若月英三, 近藤信太郎, 吉田佳子 (1994) 下顎第二大臼歯が両側性に水平埋伏した1症例. 昭歯誌, 14: 57-61.
- 2) 宮坂孝弘, 野村 篤, 山田隆久, 佐藤田鶴子(1996) 上下左右第2・第3大臼歯の埋伏を認めた2症例. 口科誌, 45: 216-219.